

令和 8 年度 第 1 回学校運営協議会記録

1. 日時・場所

令和 8 年 7 月 1 日（水）13：30 ～ 15：00

大阪府立八尾高等学校 校長室

2. 出席者

八尾市立八尾小学校 校長

浅野 貴至

株式会社桃林堂 常務取締役

板倉 資宣

一般社団法人大阪府サッカー協会 副会長

梶川 哲郎

八尾市立成法中学校 校長

小山 健治

本校 P T A 会長

八木 幸子

国立大学法人大阪教育大学 附属学校統括機構特別参与学長補佐

山崎 政範

本校

中島彩子(校長) 犬飼義大(教頭) 百軒由香子(事務長) 久世逸平(首席)

庄司佳保里(教務主任) 井上智賀(進路指導主事) 池田裕佳子(保健主事)

藤本一典(3 学年主任) 橋本優希(新規採用教員)

3. 「令和 7 年度学校評価」について

校長から説明。

- 学習時間に関して、令和 6 年度の平均は 2 時間 11 分、令和 7 年度では 2 時間 25 分となっていることに対し、「良い傾向である」との評価を受けた。
- 午後 4 時過ぎまで授業を受け、午後 7 時まで部活動をしてから帰宅する生徒は、食事や入浴を済ませた後に 2 時間以上勉強すると深夜になってしまうという、生徒の多忙さを懸念する声があがった。
- 特に 1 年生は部活動で体力を使い果たし、帰宅後は寝るだけで学習時間が「0 分」という場合も多い一方で、2 年生後半や部活動を引退した 3 年生になると、体力がつき、勉強に対する意識から学習時間が伸びるという実態が共有された。
- 働き方改革に関して、民間企業の立場から業務を「チーム」で共有し、誰が何をしているかを可視化することや、会議の効率化、管理職による残業の事前承認制などの工夫が紹介された。

4. 「令和 8 年度学校経営計画」について

校長から説明。

- 「年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教職員をゼロにする」ことに関して、教員が「子どもたちのためにやっているのに」という不満や、在校時間が多い教員には改善を求める一方、一定の成果がある部活動については、学校の強みとして広報に役立てている等、矛盾が生じている等懸念が示された。
- 中期的目標にある、「時を守り、場を清め、礼を正す」に関して、「状況に合わせた振る舞い」を教えることは社会に出るうえで非常に重要であるという方針を支持する意見があった。

- 学校経営計画にあたっては、単なる数字やパーセンテージでの評価で終わらせるのではなく、「チーム八尾高校」としてどのように実践していくかという取組みのプロセスを重視してほしいという意見があった。

5. 「令和8年度進学等合格実績」について

進路指導主事から説明。

- 今の高校生は、小中学校時代に職業体験などの行事がコロナ禍で全くなかったこともあり、実際の経験を通じたキャリア形成が不十分であり、キャリア教育の充実をという意見があった。
- 夏期講習等に関して、教諭が部活動と並行して実施しているため、働き方改革の観点から教員の負担については留意してほしいという意見があった。

6. 「令和9年度使用教科書採択」について

教務主任から説明。 特に意見なし。

7. 「その他」について

①「3学年の様子」について

3学年主任から説明。 特に意見なし。

②「生徒の検診等」について

保健主事から説明。 特に意見なし。

③「予算・施設設備」について

事務長から説明。

トイレの洋式化について、便器を洋式に変えても、排水管などの根本的な老朽化により「夏のトイレのにおい」が解決しないといった学校現場の現況について意見交換を行った。